

ウクレレの歴史

ウクレレは 1879 年 8 月にポルトガルから持ち込まれた。

ポルトガルの小型楽器（マシェティ）を鳴らしながら歌ったのが始まりとされている。

ウクレレはハワイというイメージが強かったので、楽器自体はポルトガルのもので知り、驚きました。

ウクレレは 1970 年代からのハワイの文化復興のおかげで、現在では世界中で有名なものになったと感じました。ハワイの観光局のホームページを見ると、ハワイについて学ぶページや、ハワイスペシャリスト検定のようなものもあり、現在ではハワイの文化を学ぶことができる機会が揃っていると感じました。

太平洋の国々の先住民族の音楽は、現在ではどんどん忘れられてしまっていると感じました。先住民族の人々が暮らしていた場所に、移民や欧米諸国の人々が移り住み、先住民族は邪魔者扱いされてしまうという歴史をよく聞いたことがあるので、そのような中で、先住民族の音楽も忘れられてしまっていると思いました。先住民族の音楽はその土地の特徴や歴史などを反映している特別なものであり、その国の象徴でもあるため、後世に伝えていく必要があると感じました。

ウクレレメモ

ウクレレの原型は 19 世紀後半のポルトガル移民が持ち込んだ小型弦楽器で、彼らがハワイでコアの木を使ってブラギーニャという故郷の楽器を作ったことがはじまりとされている。4 本の弦を持つウクレレは、ハワイ語で 'Ukulele と表記され、「ノミが跳ねる」という意味。

「ノミが跳ねる」という意味はなぜ？

兵役を終えてハワイにやって来たイギリス軍人エドワード・パーヴィスはブラギーニャに興味を持ち、すぐにマスターした。彼はしばしば群集の前でウクレレ演奏を披露し、喝采を浴びたりしていたらしい。小柄なエドワードが演奏する姿を見た人たちが親しみをこめて「飛び跳ねる蚤」つまり UKU（蚤）、LELE（跳ぶ）と呼んだのだという説。また別の解釈によると、かのホアオ・フェルナンデスの素早い指の動きが飛び跳ねる蚤を思い起こさせたという説もある。カラカウアの妹でハワイ王朝最後の女王となったりリウオカラニはもっと独創的な解釈をしていたそう。UKU には「贈り物」や「支払い」という意味もあったし、LELE には「やって来る」という意味もあったから「到来した贈り物」、つまりポルトガルからハワイへの贈り物、という意味なのだと。王室らしい気品のある解釈である。

最初のハワイ産ウクレレの生産者として名を残しているのが、前記の移民船に同船していた家具職人、マニュエル・ヌネス、ジョゼ・サント、オーガスト・ディアスの 3 人。

マニュエル・ヌネスが「NUNES UKULELE」を立ち上げるなどして、ハワイ独自の楽器「UKULELE (ウクレレ)」として確立して行った。その後、1911 年にクマラエがウクレレの生産を始め、1915 年のサンフランシスコで開催された「パナマ太平洋博覧会」でクマエウクレレが金賞となり、アメリカにもウクレレが渡りハワイアンブームが起きた。そうして 1910 年代後半から C.F. Martin 社がマホガニーを使いウクレレを生産し、市場に参入していった。そしてハワイでは 1916 年にカマカ社が設立され幾多のウクレレが生まれ、今でも素晴らしいウクレレを作りだしている。

～今日の感想～

1941 年の時点でハワイ人口の 4 割もの人々が日本人や日系人だったと知りとても驚くとともに、確かに人口が 40% も減ってしまっただけで経済も回らないだろうなと感じました。

またハワイアン音楽は確かにアメリカ本土の人の思い描くものとはかなり異なっており、ハワイの人々の思いも理解できると思いました。本来のハワイアン音楽は陽気なおじさま達が楽しく歌っているような雰囲気

気だけれど、アメリカでのものは女性がスタンドマイクの前で歌っているような印象を抱き、音楽のテンポや声質で随分印象が変わると思いました。

◎太平洋地域の音楽は、今では伝統的なもの、近代的にアレンジされたものなどさまざまなものが溢れているのではないかと考えます。文化を守ろうとする動きや新たなものを創作していこうとする動きが活発になっているのではないかな、と。

ウクレレはハワイ発祥で、1879年にポルトガル移民が持ち込んだとされている。

発祥国だけでなく、そこで発祥するまでに様々な国や出来事が絡んでいると知って驚いた。

ー太平洋地域の音楽ー

島を植民地にしていた宗主国の文化が入っていると考えられる。マオリ族のハカなどが例に挙げられると思う。海に囲まれた土地として各音楽に共通点はあるのだろうかという疑問に思った。

ウクレレから派生して、ハワイの歴史、ハワイアン音楽の歴史を学んだ。

ウクレレの歴史

ウクレレの原型は19世紀後半のポルトガル移民が持ち込んだ小型弦楽器で、彼らがハワイでコアの木を使ってブラギーニャという故郷の楽器を作ったことがはじまりとされています。

「ウクレレ」という言葉の意味・・・「飛び跳ねる蚤」

由来は諸説あり、「おそらく1879年にポルトガルから渡ってきた楽器を広めた男、エドワード・パーヴィスの身体が小さく動きの早いことからつけられたハワイ語のニックネームに由来する」や、「ポルトガルの小型楽器Machete（マシェティ。カヴァキーニョ、ブラガ、ブラギーニョという説もあるが、すべて同類の小型弦楽器）をかき鳴らしながら歌った25歳の青年ジョアン・フェルナンデスの素早い指の動きが飛び跳ねる蚤を思い起こさせた」というような説がある。

「ハワイ王朝最後の女王となったリリウオカラニはもっと独創的な解釈をしていたそう。UKUには「贈り物」や「支払い」という意味もあったし、LELEには「やって来る」という意味もあったから「到来した贈り物」、つまりポルトガルからハワイへの贈り物、という意味なのだと。王室らしい気品のある解釈である」という記述もあった。

参考、引用

<https://www.allhawaii.jp/article/4850/#:~:text=%E3%82%A6%E3%82%AF%E3%83%AC%E3%83%AC%E3%81%AE%E5%8E%9F%E5%9E%8B%E3%81%AF19,%E6%84%8F%E5%91%B3%E3%82%92%E6%8C%81%E3%81%A3%E3%81%A6%E3%81%84%E3%81%BE%E3%81%99%E3%80%82>

https://www.ukulelepicnicinhawaii.org/about_history.html

<https://www.aloha-program.com/curriculum/lecture/detail/203>

太平洋地域に限る話ではないが、戦争と音楽というのは密接に関係しており、日本などでは音楽や芸術についての規制もあったのではないかなと思う。

敵国の曲は放送しない、などがあったのではないかな。また、戦後には反戦を歌ったものが多かったと思う。

また、植民地支配等による言語の統制から、民族歌謡の禁止、廃れがあったのではないかな。

ウクレレ

→ポルトガルが発祥地（1879年暑い土曜日 ポルトガルからの移民がもちこんだ）

ブラギーニャ（サンバで使われる楽器：ブラジル→ポルトガルが宗主国）

移民：サトウキビのプランテーション農園の労働力

「ウクレレ：飛び跳ねるノミ」の名前の由来

→ウクレレをハワイに広めたとされる人「エドワード・パーヴィズ」：小さな身体で俊敏に動くので「ウクレレ」というニックネームがついていた。それが由来という説も。

1888 年：ウクレレという名前が楽器を指す言葉として印刷された最も古い印刷物の発行年

<https://www.aloha-program.com/curriculum/lecture/detail/203>

太平洋地域の音楽で起こっていることは？

<予想>←実際にどういうことが起こっているのかは全く知らないので完全な予想です

伝統的な音楽というのは基本的に現地の言語で歌われていることが多いと思うのですが、先生が授業中に少し言っていたように、今は世界中でさまざまな少数民族の言語が消滅しつつあるので、太平洋地域の音楽の言語もなくなってしまって、音楽そのものが歌われなくなっているのかなと予想します。

ハワイの歴史として、伝統的な信仰や習慣、制度廃止が働きかけられても、その弾圧の陰でハワイの人々がフラなどのハワイ文化を絶えさせなかったことで、今私たちの代にまでハワイ文化が伝わってきているのだと思うと、先人たちのそういう努力はほんとに貴重だなと思います。私たちにもそういう、伝わってきた文化を来世にも伝えていく義務があるのかなーとも思いました。真珠貝の歌がアメリカに渡った後メロディが変わってしまったように、やはり地域によって曲に対するイメージが変わるので曲自体も異なっていくのだなと思いました。こういう部分に関わるのがその地域の歴史だと思うので、そういう面でも歴史というのは大事だと感じました。

映画にもなったフラガールは中学の社会の授業で一つのテーマとして扱われて教わったので親近感があります！

ウクレレの原型は 19 世紀後半のポルトガル移民が持ち込んだ小型弦楽器で、彼らがハワイでコアの木を使ってブラギーニャという故郷の楽器を作ったことがはじまりとされています。4 本の弦を持つウクレレは、ハワイ語で 'Ukulele と表記され、「ノミが跳ねる」という意味を持っています。

最初のハワイ産ウクレレの生産者として名を残しているのが、前記の移民船に同船していた家具職人、マニュエル・ヌネス、ジョゼ・サント、オーガスト・ディアスの 3 人です。

ウクレレの始まりについては、こんなエピソードがあります。

1879 年 8 月の暑い土曜日、イギリスのリバプールからやってきた船がホノルル・ハーバーに着きます。乗っていたのは、東大西洋の**ポルトガル領マデイラ諸島からの移民**の一行、427 人。

4 ヶ月の航海を経てたどり着いたホノルル港の船のデッキで、喜びの歌を歌い始めた男がいました。ポルトガルの小型楽器 Machete（マシェティ。カヴァキーニョ、ブラガ、**ブラギーニョ**という説もあるが、すべて同類の小型弦楽器）をかき鳴らしながら歌ったのは 25 歳の青年ジョアン・フェルナンデス。この時ハワイの人々が目にしたのは、後にハワイの代名詞のような楽器となるウクレレの原型だという説です。音楽好きなポルトガル移民がホノルルの街で陽気なポルトガル音楽を歌い演奏する姿が多く見られるようになり、彼らが演奏する小さなギターの音色にハワイの人々が惹かれるようになります。やがて移民たちの中から家具職人たちが楽器の生産も始めます。5 本の弦を持つ小型ギターは「タロパッチ・ギター」と呼ばれ、さらに小さな 4 本弦の楽器が「ウクレレ」と名付けられ、ハワイで作られ販売されるようになります。この時使われたのが、家具の材料として愛された高級木材、ハワイ原産のコアでした。最初のハワ

イ産ウクレレの生産者として名を残しているのが、前記の移民船に同船していた家具職人、マニエル・ヌネス、ジョゼ・サント、オーガスト・ディアスの3人です。

「Ukulele」という名前の由来

「ウクレレ」という名前が楽器を指す言葉として印刷された最も古い印刷物が世に出たのは、ポルトガル移民を乗せた船がホノルル港に着いてからおおよそ10年がたった1888年でした。その間にポルトガルの小型ギターは、ハワイで新たな人生を歩み始めたポルトガル人家具職人の腕と、ハワイの木材コアによって、ハワイの楽器「ウクレレ」として生まれ変わったようです。

なぜ「**飛び跳ねるノミ**」という意味の言葉がこの楽器の名前になったか。

前出のハワイ語辞書の説明に出てくるエドワード・パーヴィスというのは、カラカウア王の側近だった人の名前で、彼は小さな身体で機敏に動くその特徴から'ukulele(飛び跳ねるノミ)というニックネームで呼ばれていたそうです。ポルトガル移民が持ち込んで楽しげに演奏するあの小型ギターを、カラカウアに紹介して弾き方も教えたのが彼だったことから、楽器の名前が後にウクレレになったというのが定説になっています。ウクレレと呼ばれるようになるまでは、もともとの名前Machete、その後Pila Liilii(小さな弦楽器という意味のハワイ語)と呼ばれていました。Ukuleleの名前の由来にはもうひとつあります。ハワイアンはこの「小さな弦楽器」の音色がとても好きになり、4本の弦を同時にかき鳴らす素早いストラム奏法で演奏を楽しむようになっていました。そんな彼らの手の動きが、まるでノミが跳ねるようだったことから、「ウクレレ」と呼ばれるようになったというものです。

<https://www.aloha-program.com/curriculum/lecture/detail/203#:~:text=%E6%9C%80%E5%88%9D%E3%81%AE%E3%83%8F%E3%83%AF%E3%82%A4%E7%94%A3%E3%82%A6%E3%82%AF%E3%83%AC%E3%83%AC,%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%A2%E3%82%B9%E3%81%AE%E4%BA%BA%E3%81%A7%E3%81%99%E3%80%82>

スチールギターは面白いと思った。弾いてみたい。

太平洋地域の音楽にはどんなことが起こっていると考えられますか？

欧州の国から植民地支配を受けることによって、その土地本来の言語や文化が廃れたことも考えられる。

ヨーロッパの音楽とその土地で演奏されていた音楽が融合し、その形が少しずつ変化したとも言える。

日本に焦点を当てて考えると、古代の時代から中世までは、周辺のアジアの国々から影響を多少は受けたものの、日本の祭事から生まれた音楽や民謡など、日本で生まれた音楽を中心とした音楽の発展が見られた。近代に入り、西洋との文化的交流が盛んになり日本の音楽に西洋音楽が大きく影響を与えるようになった。

詳しい知識はよくわからないが、西洋と日本の合唱を聞いていても音色が違うように感じられる。私は歌う目的や、言語の音色の違い（発声方法？）が違うからだと思っている。確かに西洋音楽が日本の音楽文化に与えた影響はかなり大きいですが、西洋のものを日本人らしく（日本人の肌に合うように）日本的な音楽に変化させているのだと思う。

このことから日本の文化と外からの文化が混ざり合い、音楽の分類がより複雑になっていると思う。

ポルトガルからの移民が持ち込んだブラギーニャ（braguinha）と呼ばれる楽器を起源とし、ハワイで独自に改良を重ねられて現在の形になったとされる。高級なものにはしばしばハワイ特産のコアの木（koa）が材料として用いられる。また、現在のウクレレを確立したのはマヌエル・ヌナスとされている。(Wikipediaより)

ハワイで作られ「ウクレレ」と呼ばれるようになったのは1880年代。エドワード・パーヴィスというのは、カラカウア王の側近だった人の名前、彼は小さな身体で機敏に動くその特徴から'ukulele(飛び跳ねるノミ)というニックネームで呼ばれていたそうです。

<https://www.aloha-program.com/curriculum/lecture/detail/203>

ひどいニックネームだ。

元々フラは男性のものだったが、女性の踊りとしてビジネス化（ハワイアンズ的な）する。その後ルネサンスが起こる。

伝統舞踊や楽器（なんとなく思いつくのは太鼓みたいなやつ）や音楽が互いに影響を与えていると思う。調べたが具体例が中々出てこない。

今日はウクレレやハワイ音楽の歴史を学習した。ウクレレの起源が移民からであることはどこかで聞いたことがあったがポルトガル移民からというのは意外だった。ハワイ音楽のように太平洋の島々の音楽は既存のものは凝っておらず西洋の影響を受けていると思った。自分はレゲーが好きなので家に帰ったらジャマイカの曲を聞いてみたい。

ウクレレについて

- ・140年前の1879年8月、ウクレレの元となるブラギーニャという小型の弦楽器が、ポルトガルからの移民によってハワイへ初めて持ち込まれたという記録がハワイ州当局に残っている
- ・故郷の民族楽器ブラギーニャを、ハワイに自生する木「コア」を使って作り始めた。それが、後にハワイの楽器として親しまれることになったウクレレの起源。
- ・UKU=「蚤（のみ）」+LELE=「跳ぶ」で、「飛び跳ねる蚤」という意味。この楽器を弾く素早い指の動きが飛び跳ねる蚤を思い起こさせるところから、この名前がついたという説。
- ・UKU=「贈り物」や「支払い」+LELE=「やって来る」で、「到来した贈り物」という意味。つまりポルトガルからハワイへの贈り物、という説。

今回ウクレレの起源を実際に知ってよりウクレレに興味をもった。歴史からもわかるようにこれらに島の文化は音楽に関してもヨーロッパが強く関係しているのだとわかった。ウクレレだけでなくフラも今のようになるまでにいろいろな変化が時代と共に起きたということを知れて面白かった。一年生の時になんとか演奏していたハワイ語の曲が前はとても早く英語になるタイミングでゆっくりになったのだということもした。太平洋の音楽ではだんだん歴史の中で伝統的な音楽が段々と少なくなってきているのではないかと思う。



ウクレレについて

ハワイ語でウクレレを'Ukuleleと書きます。'Ukuleleをハワイ語辞書でひくと「ウクレレ。語源は跳ぶノミ。おそらく1879年にポルトガルから渡ってきた楽器を広めた男、エドワード・パーヴィスの身体が小さく動きの早いことからつけられたハワイ語のニックネームに由来する」と書かれています。

ウクレレのルーツについては、19世紀のハワイに渡ったポルトガルからの移民が持ち込んだ当地の楽器がもとになっている、というのが定説になっています。

1879年8月の暑い土曜日、イギリスのリバプールからやってきた船がホノルル・ハーバーに着きます。乗っていたのは、東大西洋のポルトガル領マデイラ諸島からの移民の一行、427人。

4ヶ月の航海を経てたどり着いたホノルル港の船のデッキで、喜びの歌を歌い始めた男がいました。ポルトガルの小型楽器 Machete（マシェティ。カヴァキーニョ、ブラガ、ブラギーニョという説もあるが、すべて同類の小型弦楽器）をかき鳴らしながら歌ったのは25歳の青年ジョアン・フェルナンデス。この時ハワイの人々が目にしたのは、後にハワイの代名詞のような楽器となるウクレレの原型だという説です。音楽好きなポルトガル移民がホノルルの街で陽気なポルトガル音楽を歌い演奏する姿が多く見られるようになり、彼らが演奏する小さなギターの音色にハワイの人々が惹かれるようになります。やがて移民たちの中から家具職人たちが楽器の生産も始めます。5本の弦を持つ小型ギターは「タロパッチ・ギター」と呼ばれ、さらに小さな4本弦の楽器が「ウクレレ」と名付けられ、ハワイで作られ販売されるようになります。この時使われたのが、家具の材料として愛された高級木材、ハワイ原産のコアでした。

「ウクレレ」という名前が楽器を指す言葉として印刷された最も古い印刷物が世に出たのは、ポルトガル移民を乗せた船がホノルル港に着いてからおおよそ10年がたった1888年でした。その間にポルトガルの小型ギターは、ハワイで新たな人生を歩み始めたポルトガル人家具職人の腕と、ハワイの木材コアによって、ハワイの楽器「ウクレレ」として生まれ変わったようです。

なぜ「飛び跳ねるノミ」という意味の言葉がこの楽器の名前になったか。

前出のハワイ語辞書の説明に出てくるエドワード・パーヴィスというのは、カラカウア王の側近だった人の名前で、彼は小さな身体で機敏に動くその特徴から'ukulele(飛び跳ねるノミ)というニックネームで呼ばれていたそうです。ポルトガル移民が持ち込んで楽しげに演奏するあの小型ギターを、カラカウアに紹介して弾き方も教えたのが彼だったことから、楽器の名前が後にウクレレになったというのが定説になっています。ウクレレと呼ばれるようになるまでは、もともとの名前 Machete、その後 Pila Liili (小さな弦楽器という意味のハワイ語)と呼ばれていました。'Ukulele の名前の由来にはもうひとつあります。ハワイアンはこの「小さな弦楽器」の音色がとても好きになり、4本の弦を同時にかき鳴らす素早いストラム奏法で演奏を楽しむようになっていました。そんな彼らの手の動きが、まるでノミが跳ねるようだったことから、「ウクレレ」と呼ばれるようになったというものです。

引用：<https://www.aloha-program.com/curriculum/lecture/detail/203>

ウクレレ (ukulele ukelele) は、ヨーロッパ、ポルトガルの民族楽器マシェーテ (machete)、またはブラギーニャ (braguinha) をもとにして、今から約140年前に、ポルトガルのマデイラ島からの移民が故郷の楽器に改良を加えて作られたものです。

ポルトガル領マデイラ島 (マデイラ自治領) は、ヨーロッパの西端イベリア半島の西岸に位置するポルトガルから、さらに西南約1000km沖の大西洋に浮かび、どちらかといえばアフリカのモロッコに近い南国リゾート地です。

引用：<https://tenki.jp/suppl/kous4/2020/08/23/29952.html>

カラカウア王の時代、それまで宣教師たちによって禁止されていたフラを復興させようという動きがありました。元々フラは打楽器とチャント (祝詞) だけで踊るものでしたが、宣教師が来て教会ができたことにより、ハワイの人々も聖歌や賛美歌などメロディーのある音楽を覚えるようになります。そこでカラカウア王は、メロディーのついた歌でフラを再興しようと考え、ウクレレの普及につながることにします。

引用：<https://hawaiilifestyle.jp/note/?p=20641>

ハンス・ホイヤーというメーカーがポルトガル製ウクレレが作っているようである

(<https://www.hoyerguitars.com/jp/>)

太平洋地域の音楽について、どんなことが起こっていると考えられるか。

自分の考え：太平洋地域ではもともと自然だったりその土地の風土だったりを反映した音楽がつくられてきたと思う。近代化に伴い、音楽も西洋的な要素が強まっていく中で、もっと形式化された音楽ができた

り、不均一なところが多少均一化されながらもその独自性が今日まで伝わっていると思う。ただ、楽器が特殊だったり弾き手・歌い手が限られていたりすると思うので、消滅の危険性を逃れるための対策が講じられる必要があるのかもしれないと思う。また、やはり今日では流行る音楽というのが興隆するので、あくまで推測だがマイナーかつ独自色の強い音楽は衰退の傾向があるように思う。一方で伝統文化を保護する動きも根強いので、個人的には後世へも引き継いでいくのが理想なのではないかと思う。

調べた結果：

西洋文明の移入およびキリスト教の布教活動により、とくに 20 世紀に入って、オセアニアの音楽慣習は大きく変化した。たとえば、西洋風の賛美歌歌唱が多く地域で取り入れられ、その歌唱様式は世俗的な歌唱にも影響を与えてきた。また、欧米の大衆音楽の要素と各地域固有の音楽の要素とを融合させ、ギター、ウクレレ、ハーモニカ、竹筒などの伴奏で歌われる世俗歌のジャンルは、パン・パシフィック・ポップと総称され、オセアニア全体でとくに若い世代に人気を博している。

音楽文化のこうした大きな変容のもとで、いまなお存続するオセアニア伝統音楽に共通の特徴としてあげられるのは、器楽より声楽が優勢であること、楽器のなかでは体鳴楽器の種類が多く弦鳴楽器が少ないこと、音楽や楽器と踊りとが密接なかかわりをもつこと、身体打奏が多用されること、などである。

引用：日本大百科全書 「オセアニア音楽」

感想

ハワイの音楽はハワイのイメージ形成に大きく関わっているからか、なんとなく自分の中に固定観念があったが、実際には複雑な歴史の裏で出来上がったものだとしりそれまでの印象から大きく変わった。特に、その独自性から今日まで文化が昔のまま引き継がれているのかと思いきや、消滅の危機に陥ったこともあったり、欧米人がイメージを作っていたりしてハワイも他の例にもれず近代化や欧米化の流れの影響を受けてきたのだと感じた。

<ウクレレについて>：ハワイ州観光局公式サイトより

ウクレレはいつ、どこで生まれたか。

ウクレレの始まりについては、こんなエピソードがあります。

1879 年 8 月の暑い土曜日、イギリスのリバプールからやってきた船がホノルル・ハーバーに着きます。乗っていたのは、東大西洋のポルトガル領マデイラ諸島からの移民の一行、427 人。

4 ヶ月の航海を経てたどり着いたホノルル港の船のデッキで、喜びの歌を歌い始めた男がいました。ポルトガルの小型楽器 Machete（マシェティ。カヴァキーニョ、ブラガ、ブラギーニョという説もあるが、すべて同類の小型弦楽器）をかき鳴らしながら歌ったのは 25 歳の青年ジョアン・フェルナンデス。この時ハワイの人々が目にしたのが、後にハワイの代名詞のような楽器となるウクレレの原型だという説です。

ハワイでウクレレを作ったのは誰か

音楽好きなポルトガル移民がホノルルの街で陽気なポルトガル音楽を歌い演奏する姿が多く見られるようになり、彼らが演奏する小さなギターの音色にハワイの人々が惹かれるようになります。やがて移民たちの中から家具職人たちが楽器の生産も始めます。5 本の弦を持つ小型ギターは「タロパッチ・ギター」と呼ばれ、さらに小さな 4 本弦の楽器が「ウクレレ」と名付けられ、ハワイで作られ販売されるようになりました。この時使われたのが、家具の材料として愛された高級木材、ハワイ原産のコアでした。最初のハワイ産ウクレレの生産者として名を残しているのが、前記の移民船に同船していた家具職人、マヌエル・ヌネス、ジョゼ・サント、オーガスト・ディアスの 3 人です。

「Ukulele」という名前の由来

「ウクレレ」という名前が楽器を指す言葉として印刷された最も古い印刷物が世に出たのは、ポルトガル移民を乗せた船がホノルル港に着いてからおよそ 10 年がたった 1888 年でした。その間にポルトガルの小型ギターは、ハワイで新たな人生を歩み始めたポルトガル人家具職人の腕と、ハワイの木材コアによって、ハワイの楽器「ウクレレ」として生まれ変わったようです。

なぜ「飛び跳ねるノミ」という意味の言葉がこの楽器の名前になったか。

前出のハワイ語辞書の説明に出てくるエドワード・パーヴィスというのは、カラカウア王の側近だった人の名前で、彼は小さな身体で機敏に動く
その特徴から'ukulele(飛び跳ねるノミ)というニックネームで呼ばれていたそうです。ポルトガル移民が持ち込んで楽しげに演奏するあの小型ギ
ターを、カラカウアに紹介して弾き方も教えたのが彼だったことから、楽器の名前が後にウクレレになったというのが定説になっています。ウク
レレと呼ばれるようになるまでは、もともとの名前 Machete、その後 Pila Lili'i (小さな弦楽器という意味のハワイ語)と呼ばれていました。
'Ukulele の名前の由来にはもうひとつあります。ハワイアンはこの「小さな弦楽器」の音色がとても好きになり、4本の弦を同時にかき鳴らす素
早いストラム奏法で演奏を楽しむようになっていました。そんな彼らの手の動きが、まるでノミが跳ねるようだったことから、「ウクレレ」と呼
ばれるようになったというものです。

太平洋地域の音楽：音楽や舞踊は、本来その伝統を担う人びとが培ってきた表演の時空間という脈絡のなかでこそ文化的な意味を発揮するも
のであり、そこには録音や録画という記録の手段は必要とされないまま、それぞれの表現と受容の図式を達成するものです。ところが、民族
音楽学的な調査研究や国際的な文化交流の活動が盛んになるにつれ、研究者や文化行政関係者といった外部者の要請に応じて表演がとりおこ
なわれる状況がしばしば見られるようになりました。国際交流基金や兵庫県、大阪府などによる文化行政的な企画に30年ほど関わってき
ました。冒頭で言及したミクロネシアの事例も、私自身が「外部者として仕組んだ録音」だったのですが、純粋に学術的な関心からとっていた
行動でしたし、以下に紹介する事例がアジア諸国の音楽を音楽家や楽器の現物とともに日本にそのまま移動させて専門家や一般の方々に紹介
するための事前調査的なケースであった点でやや意味合いが異なります。1972年に外務省所管の特殊法人として設立された国際交流基金
は、「文化交流を通じて国際相互理解と、国際友好親善を促進することを目的として」（ホームページより）いて、翌年早速新しい企画の相
談が始まりました。結局、1974年に小泉文夫・徳丸吉彦両氏と私が企画委員に任命されることになった「アジア伝統芸能の交流」というユニ
ークな文化交流企画です。その名称自体も英文の Asian Traditional Performing Arts (ATPA) とともに1976年に第1回の実現にこぎつけて
から決定したのですが、3年を周期にして全5回すなわち15年計画で実施しようという壮大な企画でした。3年というのは、事前調査を含
めた準備の年、本番の年、そして成果公刊の年が必要だと協議した結果でした。それ以外にも、この企画がユニークだったのは、音楽家だけ
でなく、また音楽学者だけでなく、それら双方を巻き込んだ交流プログラムであった点や、成果をいまでいうところのマルチメディアの形
で公表し、後世にまで影響力を持続できるものにしようといふところにもありました。早速、事前調査の年を1974年と決め、分担して実
行に移しました。私の担当はフィリピンとインドネシアでした。日本に招聘すべき音楽学者と音楽家の候補にあたりにつけたうえで、現地へ
飛びました。フィリピンの音楽学者といえば、当時としてはホセ・マセーダが筆頭に挙げられたことは言うまでもありません。そして、彼と
相談するより前に私が候補に挙げていた音楽家、あるいは対象とすべき伝統としては、ルソン島北部のイゴロットと総称される少数民族の音
楽がありました。その時にマセーダ博士が主張していたことが今でも忘れられません。それは、社会機能を帯びた音楽を現場から切り離して
外国へもってゆくことへの疑念でした。そのような意見を気にしながら、私はともかく現地を体験する事前調査のためにマニラを離れまし
た。ルソン島北部の山岳地帯に住むカリंगा社会やイフガオ社会の人びととの接触は、いまにして思えば、現在、ベトナムの少数民族に深
く関わっている私の行動を予兆するものであったと言えます。外部者がいくらかいても、結局は深いところまで少数民族の文化を本来の姿で外国
の公衆に紹介することはできないと実感しつつ、私は現地録音の場にこぎつけました（写真3）。準備のために1年あまりを費やしてから、
1976年4月に第1回のATPAが本番を迎えました。フィリピンを代表する音楽学者としてマセーダ博士、そして彼が妥協して選定してくれた
カリंगा社会の音楽家6名がマレーシア、タイ、インドネシア、そして日本の音楽学者や音楽家と1週間ほど生活をともにしつつ、学術的な
意見交換のためのセミナーや一般向けの解説つき公演に従事しました。そのとき数多いフィリピンの伝統楽器のなかの一部分にすぎないこと
を断りつつ日本に初めて直接紹介することになった楽器、たとえば割れ竹バリンビン balingbing、鼻笛トガリ tongali、口琴クビン kubing
などが本来の現場から切り離されたものではあっても、人類の貴重な楽器遺産の一端を担うことが一般の人たちのあいだでも充分に認識され
ることになりました。その証拠に、いまや日本や他の国で音楽教育に携わる人たちがこれらの楽器を材料にしたカリキュラムを組むことが現
在かなり広くおこなわれています。

ウクレレや太平洋地域の音楽の歴史がわかりました。今までの歴史が繋がって現在の文化が形成されていることがわかりました。

ウクレレは、ポルトガル移民が持ち込んだ小型楽器

彼らがハワイでコアの木を使ってブラギーニャという故郷の楽器を作ったことが始まりで、音楽家としても有名なカラカウア王の時代に誕生した。

ブラギーニャ サンバに使う楽器

ウクレレがハワイで普及した背景を探てみると、ハワイのさまざまな歴史背景が見えてきて、面白かった。

太平洋地域の音楽の分布にはその地域の気候や文化の違いが関係していると考えた。例えばハワイの音楽は、南国にあったゆったりとした曲調で、ウクレレのサウンドが特徴的である。サモアの音楽はみんなで歌って踊る曲が多いのが特徴だそうだ。

また、太平洋地域の音楽の交流は、島同士の交易や交流の中で生まれたのだと考えた。太平洋地域の歌は一人で歌うのではなく、大勢で歌うような歌も多いからだ。他の島から来た人を歓迎する意味合いで、歌が披露されることもあったのではないかと思った。

ウクレレは1879年8月23日にポルトガルの移民がハワイに導入した。

「Uku」＝ノミ、「Lele」＝飛び跳ねる→音を弾く様子がノミが飛び跳ねている様子に似てるじゃん！てことで「ウクレレ」になった。元となった楽器はブラギーニャというサンバに使用される楽器。

<ハワイの音楽史>

元々フラダンスは男性のものだったが西欧人の到来により女性の踊りというイメージに変化した。

フラダンスは1819年に伝統制度の廃止に伴い、公の場では踊られなくなり、さらには伝染病によりネイティブハワイアンが減少した。

<ハワイ周辺の島々ではどのようなことが起こっている？！>

<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%82%AF%E3%83%AD%E3%83%8D%E3%82%B7%E3%82%A2>

eg: ミクロネシア

身体打奏やほら貝などの音楽はあるが、ポリネシア人の使うような打楽器はあまり見られない。島同士の交流により、多少の文化の混在はあるそうだが、ミクロネシアでは独自の文化も維持している。

eg: メラネシア

メラネシアでも身体打奏が用いられている。

⇨島の間で交流があったことにより、演奏方法で多少の共通点が見られる。

欧米人の入植により、独自の発展を遂げていた太平洋地域の音楽は「近代化」されていくようになった。使用する楽器や言語、踊りなどが当時のヨーロッパ人らに合うように改変されていった。しかし同時に、それはより多くの人がわかるという点では優れていた。そして世界に広まるようになった。

楽器や形態は本来の形を失われてしまったかもしれないが、脈々と受け継がれる人々の魂は確かに生きていると感じた。

ウクレレはポルトガルによって19世紀後半にハワイに持ち込まれた小型弦楽器だと知ることができた。

また、もとの楽器がブラギーニャだとわかり、ブラジルとの繋がりもわかった。

また、太平洋地域の音楽はどのようなになっているのかについて、欧米の大衆音楽の要素と各地域固有の音楽の要素とを融合させ、伴奏とともに歌われる世俗歌のジャンルは、パン・パシフィック・ポップと呼ばれ、オセアニア全体でとくに若い世代に人気があるとわかった。

いまでも存続するオセアニア伝統音楽に共通の特徴としてあげられるのは、器楽より声楽が多く占めること、楽器のなかでは体鳴楽器の種類が多く弦鳴楽器が少ないこと、音楽や楽器と踊りがかかわりをもつこと、身体打奏が多用されること、などだと知った。メラネシアでは、声楽だけでなく楽器や楽器音自体にも特別な価値が置かれていることや、非常に精緻な器楽合奏が発達していることがわかった。ミクロネシアでは声楽が圧倒的に優勢で、さまざまなスタイルをとる。楽器は伝統的に重要視されず、以前には口琴、がらがら、砂時計型片面太鼓、巻き貝トランペット、横笛、縦笛、鼻笛などが分布していたが、今は、踊り手が用いる相互打奏棒のほかはほとんど用いられない。ポリネシアは、地理的に広大な範囲であるにも関わらず、言語や歌唱様式の面で共通性、関連性が強いと知った。

太平洋の島々は、互いに地理的な隔たりがあるためそれぞれで異なる文化がせ成熟しているのではないかと考えたが、調べてみるとオセアニア音楽全体での共通点や、広大な範囲からなるポリネシアの島々における共通点などもあり、全く異なる音楽を持つというわけではなさそうだ。例えば、器楽より声楽が優勢であること、音楽と踊りとが密接な関係を持つこと、体を楽器にする演奏などが共通しているようだ。

これらの共通点というのは、気温や植生などの環境が似ているために生まれたものではないかと考える。一方で、移動手段の発達した現代においては、島と島の間での交流が盛んになりお互いの文化を取り入れるという形で共通点が増えていくのではないかな。

ウクレレの原型は19世紀後半のポルトガル移民が持ち込んだ小型楽器で、彼らがハワイでコアの木を使ってブラギーニャという故郷の楽器を使ったことが始まりとされている。4本の弦を持つウクレレはノミが跳ねるという意味を持っている。ブラギーニャとは、サンバに使う楽器。ウクレレにもたくさんの歴史があることを知った。その歴史を知ることによって、楽器を演奏するときに感情移入がしやすくなるなど思った。太平洋地域の音楽は、西洋文明の移入およびキリスト教の布教活動により、特に二十世紀に入って、音楽慣習が大きく変化した。

太平洋地域の島々では、植民地時代にヨーロッパ国の支配があったためヨーロッパの音楽の影響を大きく受けて文化が成立したと思う。また、小さい島々がたくさんあり、その地域にはそれぞれの原住民族がいるから、ハワイと同じように独自の文化とヨーロッパが配合した音楽が形成されたのだと思う。実際馬の骨などを使った楽器などが使われている。

ウクレレはギターみたいな見た目だったので、そこから来たのかなと思っていたが、ポルトガルの民族楽器から来ていたと知り、驚いた。フラダンスも元々男性の踊りであったと知り、西洋人の影響が大きいんだと感じ、男性のやつがどのようなものなのか気になった。

オセアニアの音楽は、ハワイのように西洋の影響を大きく受けているが、大衆に向けて音楽を作るというより少人数で楽しむイメージがある。インターネットで調べてみると、器楽よりも声楽中心で、体を使う楽器や踊りと密接な関係があるらしく、これは資源が少ない状況下で音楽を楽しむからかなと思った。